

1995年 阪神・淡路大震災

1999年 福岡豪雨

阪神・淡路大震災から12年、その後の福岡や名古屋における豪雨災害や地震災害に見られるように、自然災害に対する備えを整えてきたはずの都市の脆弱性が露呈しています。 **いま、都市があぶない!!**



第14回 防災セミナー

2004年 台風18号:札幌

2004年 北見市豪雪

都市型災害に備えて 今後の災害情報と防災教育を考える

- 主 催:社団法人日本技術士会北海道支部防災委員会
- 後 援:北海道教育大学、北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット(CoSTEP)、独立行政法人土木研究所寒地土木研究所、社団法人建設コンサルタンツ協会北海道支部、札幌市設計同友会

【日 時】 平成19年11月5日(月)

13:30~17:15(13時開場)

【場 所】 ホテル札幌ガーデンパレス 2階「孔雀」

札幌市中央区北1条西6丁目(tel.011-261-5311)

参加ご案内

■参 加 費——●**無料**(当日直接会場にお越しください)

- 技術士及び技術士補の方は1,000円(CPD対応)

参加者全員に
「防災・減災カード」を
配布致します

■問い合わせ先—●(株)ドーコン交通部 TEL011-801-1520 小林正明

- 技術士及び技術士補の方は、下記の要領にて参加の申し込みをしてください。

E-mailまたはFAXにて氏名、連絡先(所属・TEL等)を添えて、平成19年10月29日(月)までにお申し込み下さい。

札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1 (株)ドーコン交通部 蔵田

E-mail:mkg817@docon.jp

TEL.011-801-1520 FAX.011-801-1521

第14回防災セミナー 都市型災害に備えて 今後の災害情報と防災教育を考える

■主催:社団法人日本技術士会北海道支部防災委員会
■後援:北海道教育大学、北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット(CoSTEP)、独立行政法人
土木研究所寒地土木研究所、社団法人建設コンサルタンツ協会北海道支部、札幌市設計同友会

【基調講演・アドバイザー】



片田 敏孝
(かただ としたか)

群馬大学大学院工学研究科教授

1990年豊橋技術科学大学大学院博士課程修了(工学博士)。東海総合研究所研究員、群馬大学工学部建設工学科助教授、京都大学防災研究所客員助教授、米国ワシントン大学客員研究員などを経て現在に至る。豪雨災害、津波災害、災害情報伝達、災害意識・避難行動に関する研究などに取り組み、内閣府「集中豪雨時等における情報伝達及び高齢者等の避難支援に関する検討会」委員など、自治体などの多数の委員会・審議会に携わる。日本自然災害学会学術賞、文部科学大臣表彰・科学技術賞など学会技術表彰を多数受賞。

【パネリスト】



隈本 邦彦
(くまもと くにひこ)

北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット特任教授

1980年上智大学理工学部化学科卒業。同年NHK入局。報道局特報部・社会部・科学文化部などで主に医療・科学・災害関係のニュースの取材を担当した。NHKスペシャルやクローズアップ現代などの報道番組制作にも携わる。神戸出張中に阪神・淡路大震災に偶然遭遇し、その後取材班に加わった経験を持つ。「マスメディアと研究者のための地震防災懇話会」世話人、「あいち防災カレッジ」講師。NHK退職後2005年10月から現職。防災関係の科学者と一般市民をつなぐコミュニケーションの活性化にむけて努力している。

【パネリスト】



佐々木 貴子
(ささき たかこ)

北海道教育大学教育学部札幌校准教授

1992年兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。78年文京学園女子中・高等学校(家庭)非常勤講師、千葉県流山市立東部中学校教諭、兵庫県立社高等学校(家庭)非常勤講師、横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師などを経て、現在に至る。阪神・淡路大震災直後から「防災の視点を取り入れた家庭科教育のあり方」に関する研究に取り組み、学校と地域社会の連携教材として「災害図上訓練(DIG)」の活用・普及活動を精力的に実践している。本年1月札幌市平岸・中の島少年消防クラブ主催の1泊2日の真冬避難所体験を企画運営し自らも体験参加。

【パネリスト】



加治屋 安彦
(かじや やすひこ)

(社)日本技術士会北海道支部防災委員会情報部会 部会長

1981年東京工業大学工学部土木工学科卒業。同年北海道開発庁入庁。札幌開発建設部、環境庁、北海道開発土木研究所を経て現在、独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地道路研究グループ雪氷チーム上席研究員。この間、米国連邦道路庁(FHWA)の関連機関(SHRP)出向、世界道路協会(PIARC)・交通運輸研究会議(TRB)冬期道路管理委員会のメンバーとしても活躍。2004年博士(工学)。1995年から防災委員会情報部会会長(2007年に防災研究会情報部会会長から名称変更)を務め、北海道の防災情報・通信、防災危機管理などの研究にも取り組んでいる。

■開催主旨

戦後最大の地震災害となった阪神・淡路大震災以降、自然災害に対する備えを整えてきたはずの都市の脆弱性が露呈しており、官民一体となった防災・減災対策の構築が強く求められています。

(社)日本技術士会北海道支部防災委員会は阪神・淡路大震災を契機に設立され、これまで科学的、技術的な調査研究を継続してきました。今後は産学官連携の核となって、広く社会に対する情報発信等の活動に取り組んでいきたいと考えております。

本セミナーは、この取り組みの一環として災害情報や防災教育の現状と課題を紹介するとともに、市民の皆様と一緒に都市型災害に向けた防災・減災対策のあり方について考えることを目的に開催するものです。

PROGRAM

(敬称略)

プログラム

13:30【開会】

主催者挨拶「技術士からの提案」

(社)日本技術士会北海道支部防災委員会 委員長
技術士(建設部門、総合技術監理部門) 高宮 則夫

13:50【基調講演】

「被害軽減に向けた災害情報のあり方について」

群馬大学大学院工学研究科教授

片田 敏孝

14:50【休憩】

15:00【パネルディスカッション】

「今後の災害情報・防災教育のあり方を考える」

●パネリスト

北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット特任教授

隈本 邦彦

北海道教育大学教育学部札幌校准教授

佐々木 貴子

(社)日本技術士会北海道支部防災委員会情報部会 部会長
技術士(建設部門) 加治屋 安彦

●アドバイザー

群馬大学大学院工学研究科教授

片田 敏孝

●司会

(社)日本技術士会北海道支部防災委員会 幹事
技術士(建設部門、総合技術監理部門) 城戸 寛

17:15【閉会】